

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176400372		
法人名	株式会社 マルベリー		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家 2F		
所在地	北海道留萌市開運町3丁目8-3		
自己評価作成日	平成 29年2月3日	評価結果市町村受理日	平成 29年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0176400372-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成29年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様一人ひとりが自由な時間を過ごして頂けるよう、食事以外の制限を一切行っておりません。

2つの町内会に加入し、町内活動に参加し、1Fデイサービスのスペースを夜間や土日に地域住民に無料開放して地域住民との連携を深めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

留萌市の中心部にある鉄筋コンクリート5階建ての事業所で、2・3階がグループホーム、1階はデイサービス、4・5階はシルバーマンションが併設されており、もちつき、避難訓練などを一緒に行って馴染みの関係を作り交流している。2つの町内会に加入し管理者が役員になり、利用者は、地域の祭りや清掃等の町内会行事に参加し、幼稚園の運動会総練習を見学して交流している。夏祭りなどの事業所行事には地域住民が参加し、又、地域住民が気軽に立ち寄ってもらえるよう、デイサービスのスペースを土、日、夜間に無料開放を行って地域との連携を深めている。災害時には建物が市の避難場所として登録されている。居間・食堂は一体的でゆったりしていて日が入り明るく、利用者手作りの季節の貼り絵等が飾られ、ホールや廊下にソファを置いて利用者同士会話がしやすいように工夫し、利用者はテレビを見たり、会話をしたり、カルタ、読書などをして、職員に見守られながらつらいで過ごしている。職員は明るく、利用者個々の健康状態を把握して体操や歌を歌うなど無理強いないようにして、「自発性」を引き出すケアに努め、利用者が思い思いのことをして自由に、ぬくもりある生活を過ごせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりが支え合い、元気で笑顔あふれるめくもりある生活」を理念に掲げ、職員間で理念を共有し、実践に繋げている	「めくもりある生活」をモットーに、職員で話し合っ作った理念である。ユニット会議で理念を共有して、実践に繋げている。法人としての理念も併せて掲げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	福広会、檜町内会と2つの町内会に加入している。各町内会の役員会などに管理者が参加し、高齢化が進む町内の役員も努めている。また近所の幼稚園運動会総練習見学に参加し、交流を深めている	2つの町内会に加盟しており、地域の祭りや清掃等の町内会行事に参加している。事業所主催の夏祭りには地域住民が参加し、交流を深めている。近隣の幼稚園の運動会等を見学して交流を深め、利用者も楽しみの一つとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議内で認知症の勉強会を開催し、地域の人々に理解を深めている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成27年度は運営推進会議を6回開催し、現況報告を行っている。災害についてのマニュアルを新たに作成し、建物が一部避難場所への登録もされている。市や町内会との連携を深めていきたい	会議は年6回開催し、3月には夜間を想定した避難訓練の後、3月25日に今年度最後の会議を行う。会議には家族や市職員、民生委員、町内会長等が参加し、事業所の現状報告や行事報告、避難訓練結果等を報告し意見や助言を得てサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、計画作成者が市の介護支援課と連絡を密に取ったり、足を運び実績やサービスの報告を行っている。市の職員も足を運んでくれることが多くみられている	市担当者とは、事業所の運営状況や利用状況を報告するとともに、事業所のサービスや取り組み等を伝えたり、感染症予防対策の指導を受けるなど、日頃から協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一度社会福祉協議会で開催される高齢者虐待の研修に参加している。研修内容を職員で共有して、知識を高めている。身体拘束をしないケアに職員が理解し取り組んでいる	外部研修に参加しており、研修内容は職員で共有し拘束のないケアに努めている。家族との契約時には拘束について説明している。出入口は安全上夜間は施錠している。スピーチロックについては全職員で注意をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一回安全について話し合う場を設け、知識の向上を図り防止に努めている。特に言葉使いには、注意を促し、御入居者様、職員間の言葉使いが改善されている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護の研修に参加している。身寄りのない入居者の権利を保護する為、市や行政書士と連絡を取っている。運営推進会議で後見人センターの職員が参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書、運営規定、重要事項説明書、重度化の指針を通じて、入居者や家族、関係者に十分な説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月一回ぬくもりの家広報誌と入居者の一日の様子をまとめた文書を家族に郵送している。また家族の面会時に意見や要望を受け入れ、運営に反映させている	家族の面会や電話連絡の際に、利用者の様子を伝えながら話を聞くようにしている。家族からは意見や要望が出され、その内容を記録して職員間で共有し介護に反映できるようにしている。利用者の暮らしぶりは、「ぬくもり通信」のお便りで知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー、副リーダーを中心に意見を聞き入れ、その意見を管理者に報告し反映させている	管理者は職員から個別に意見・要望を聞く機会を心がけ、ストレスや不満の解消に努めている。デイサービスを加えた全体会議、ユニット会議で職員からの意見や要望を吸い上げて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の職員の意見や相談を聞き入れ、各個人が向上心を持って働けるよう職員の整備を行っている。残業はなく、職員は勤務時間通りに退社されている。また有給休暇も職員お互いで取れている。資格に応じて正社員への変更も行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者より、市内外の研修を提案し、参加したい職員は希望で参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市に同業のグループホームが平成26年に開設され、研修に行き来し意見交換を行っている。また札幌市、歌志内市に関係施設があるため、その職員とも交流を深めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入院、在宅問わず、相談から入居までの間に管理者、計画作成者が何度も面会・面談を行い、利用者のニーズの把握に努めている。信頼関係を構築し、入居者が安心して入居できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話す機会を多く作り、不安や希望などに耳を傾けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、家族の意見を受け入れ、デイサービスや高齢者マンションの存在を示し、選択肢の幅を広げている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理やおやつ作り・洗濯の手伝いをしてもらい、互いに支え合う関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さな事でも報告をするように努め、また月に1回1日の報告する文書を作成し、受診の様子などを郵送にて報告している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間や外泊、外出には制限を設けていない。家族や知人が居室内で一緒に食事を摂る場面もある	職員は利用者と同行して馴染みの店での買い物に行ったり美容室に行くなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように努めている。また、利用者の友人の来訪があった場合は、居室でゆっくりできるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合う入居者様同士に座れるよう支援している。また場面に応じた席の工夫に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事などの通信を月1回送付している。また職員が家族のお見舞いなどにも行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意見が聞ける入居者には十分に聞き、困難な場合には家族に聞き、本人本位に検討している	管理者や職員は、入居時の聴き取りやアセスメント表から利用者の生活歴を把握しているほか、日々の生活の中で会話や関わりから思いや意向を把握し、ユニット会議や申し送りノートで周知している。意思疎通が困難な利用者の場合は、表情や仕草などから判断したり、家族等から情報を得て共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	仕事や性格、趣味を本人、家族から聞き把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を介護記録に記入している。月に1回ユニット会議を開催し、職員同士で現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が入居者本人、職員と話をし、介護計画書を作成している。作成した計画書を家族、入居者本人に提示している	利用者家族の意見や要望を基に、月1回モニタリングを行い、短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月で計画の見直しを行い家族の確認印を得ている。また、状況の変化に応じて、随時介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカンファレンスやユニット会議内で情報を共有し、計画の見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院中の入居者様のカンファレンスに管理者、計画作成者が家族と一緒に同席し、早くグループホームに戻れるよう支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の幼稚園運動会総練習見学を毎年行っている。全入居者が参加できる行事の企画に努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に月2回の往診を受け、報告や相談を行っている。また緊急時には電話連絡にて、往診も行っている	かかりつけ医受診の継続を支援しており、受診結果については家族にその都度電話で報告し、職員と共有化されている。協力医(月2回)、歯科医(随時)の往診が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	便の対処や皮膚の処置については看護師が行っている。また発熱時などは看護師に報告を行い、適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	市の病院の地域連携職員と電話連絡や面談し相談を密に取っている。家族とのカンファレンスに同席し、退院に向けて、病院関係者と話をしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に関わる文書を家族に提示し、家族の理解を深めている。入居者様の状態を観察しながら、受診や救急搬送を検討している	契約時に指針に基づき、重度化した場合や終末期のあり方について本人・家族に説明し確認を得ている。重度化した場合は、利用者、家族、関係機関と十分話し合い、希望に添えるよう支援している。また、看取りやターミナルケアの研修は行われている。	協力医との医療体制は24時間体制ではなく、都度状況により連絡はしているが、他医療の市立病院も医療として対応して頂いている。今後の重度化した場合や看取りの事象があった場合の24時間体制を確立する上で、協力医及び市立病院との連携を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置を行っている。今年度全職員救命講習を行った		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策のマニュアルを作成し、職員会議後に車椅子入居者を階段昇降する訓練を行った。今後火災だけではなく水害についても訓練を行う予定である	年2回日中想定避難・消火訓練をディサービス、共同住宅入居者と一緒に行っている。また、夜間を想定した避難訓練も近々実施する。施設は5階建てのため、市からも避難場所として登録されており、備蓄やAEDも整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で注意を促しながら行っている。入居者のプライバシーを損ねない言葉かけができています	誇りやプライバシーに配慮した言葉掛けに注意を払っている。トイレ誘導や入浴時など、プライバシーを損ねないように利用者に優しく接している。利用者の名前を呼ぶ時は、利用者の気持ちを損なわない様に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事の際にはメニュー表みて食べたいものを選んでもらい出前を取るなど、入居者の自己決定が多くできるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペース、状況に合わせて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者本人の希望する美容室の援助を行い、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している		

グループホーム めくもりの家 2F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ミキサー食から普通食まで全ての対応をしている。好き嫌いを聞き入れ、嫌いな物は提供しないよう心掛けている	朝・夕食は利用者の希望を聞いて職員が献立し、職員と利用者が協力して調理を行っている。昼食は業者に委託している。誕生日には外食や出前して、利用者全員が食事を楽しんでいる。また、おやつ・外食・行事食の内容を検討しながら、希望に合わせた楽しい食事の提供に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分量のチェックを行い、自力摂取が難しい入居者には介助を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者によって毎食後口腔ケアを行っている。口腔ケアが難しい方には、ガーゼにて清潔を保てるようにしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にチェックを行い、入居者の排泄パターンをつかみ、声掛けを行っている	日中は布パンツとパットを利用しながら、自発的にトイレで排泄ができるように支援している。声掛け誘導に心掛け、自然に排泄ができるよう、食事、水分に心掛け、また、体を動かす事にも意識して自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日本体操を行い、1日1回は身体を動かしてもらうようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の回数に制限をしていない。毎日浴槽にお湯をためている。身体状況に合わせて1Fデイサービスの特設浴槽で入浴をしている入居者もいる	入浴日や入浴時間の制限はなく、利用者の体調や希望にあわせて入浴できるように取組んでいる。また、入浴剤を使用して心身ともにリラックスできるようにしている。入浴を好まない利用者の対応については、カンファレンスなどで話し合い、支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッド、布団については、家庭のままの状況に合わせている。ベッドが必要になった場合には家族に相談しながら行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による研修を職員で受け、入居者一人ひとりが服薬している用法や容量について理解できるようにしている。特に誤薬には注意をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の役割を生かしていくよう、野菜の皮をむいてもらったりと工夫を行っている。また歌のテレビをみながら歌ったり、カルタを行うなど気分転換の支援に努めている		

グループホーム ぬくもりの家 2F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族、友人の外出は自由に出掛けられるよう支援している。また冬場は難しいが、夏場には近所を散歩し、スーパーに行くなど支援している	天気の良い日には職員と利用者でスーパーに行ったり、事業所周圍を散歩したりしている。また、利用者の希望の場所や地域の花の名所にドライブに出かけるなど、利用者の気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の認知能力に合わせて自己管理している。管理が難しい場合はグループホームで管理を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	兄弟との手紙交換を行っている入居者がいる。電話の要望が合った場合には、その都度対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内に季節感を感じ取れる飾り付けを行っている。温度や湿度の調整は職員が徹底して行っている。また乾燥防止のため濡れたタオルを干し乾燥しないように心掛けている	広く明るく開放感ある居間兼食堂には、食堂テーブル、椅子やソファがゆったりと配置されている。壁には季節を思わせるような手作りの飾り付けをしており、イベントの写真や利用者の手作りの作品が飾り付けられている。温度と湿度を定期的に測定し、管理しながら居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士でお話ができるよう、ソファの設置を行い、くつろげるスペースを作っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で生活していた馴染みの物を居室に設置している。じゅうたんなど転倒の危険があるものは家族と相談し行っている	利用者がこのグループホームで不安なく安心して暮らせるように、今までの自分の生活が続けられるように馴染みの家具や居室の雰囲気作りを工夫している。その後の身体状況の変化に合わせた配置についても、家族と一緒に相談し、現状に合わせた空間作りを行っている。また、利用者と職員が一緒になって入口の飾り付けを作り、特徴づけしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面には十分に配慮し、できる事を職員がみつけ自立した生活を送れるよう工夫している		